

## 製造業

- ◇パン…各地で開催された秋のイベント等に参加し業界全体で努力しているが、なかなか業績は伸びない。学校給食パンに関しては衛生上の制約が特に厳しく、次年度からの契約を辞退する組合員もあり、近隣市町村の業者に依頼しているところである。
- ◇味噌…原材料価格の高騰により収益面で厳しい状況が続いている。
- ◇酒…10月の課税移出数量は前年比98.5%と依然として前年割れが続いているが、特定名称酒、特に純米酒は堅調な伸び。全国的に輸出免税数量は毎年増加、10月も前年比121.5%と好調。焼酎乙類は落込傾向にあり10月は98.7%。清酒大手メーカーの値上げ発表以後、当県でも今年度中に追隨した値上げを予定。原料米は今年の異常気象で急騰、大きな引上げ要因となっている。支部ごとに、県・各市町村に「日本酒で乾杯推進条例」の働きかけを行っている。
- ◇納豆…大手メーカーは順調、中堅メーカーは流通のPB商品戦略に振り回されている。若い後継者が育っている中小メーカーは差別化戦略を打ち出し健闘しているところが見受けられる。メーカーによって業績に大きな違いが出始めたことはこれまで無かったように思う。業界の動向を一括りでは説明できにくくなった。
- ◇菓子…各地域で恒例のイベントが開催され、組合員も趣向をこらした商品を販売し好評を得た。店頭売りは和菓子がまずまずで景況は上伸気味であった。
- ◇繊維製品(袋物)…各社とも売上は増加。12月から年初までは仕事の確保が出来ている様子。
- ◇繊維製品(縫製)…当月は昨年並みの受注状況だった。12月は例年受注が増加し、残業が多くなり各社とも多忙月となる。期待出来る月となりそうである。
- ◇木材…10月下旬から荷動きが上向き、国産材製品の品不足と値上がりが続いている。本格的な伐採期に入っても原木不足は解消されず、国産材製品の需要が木材利用ポイントなどにより増え、製材工場の生産が供給分まで追いつかないことが要因。品不足に陥る製品の広がりが見られる。製品価格は前月比 杉8,000円/m<sup>3</sup>、檜15,000円～20,000円/m<sup>3</sup>の値上がり。
- ◇プレカット…11月も前月同様忙しかった。12月もほぼ予定が入っており、新規物件は加工できない状況。乾燥材の品不足と価格の急上昇で対応が大変である。
- ◇段ボール…一部安値競争が激化し、収益の悪化や販売量の減少が見られる。また組合員の商権を大手が安値で買い取っていくところも数社あった。

- ◇焼物…市内の販売店を見ると、土・日・祝は大勢のお客様が来店しているが、平日は寂しい感じがする。平日の来客が増えるような仕掛けが必要である。
- ◇鍍金…仕事量は前月比、前年比とも1～2割減。自動車関係部品は減少、弱電(家電製品等)・電子部品関係についても減少している。建機・建築関係は比較的好調。メインの得意先の業種によって忙しい会社とそうでない会社があるのが現状で、忙しくない会社の方が圧倒的に多い。金属材料・工業薬品とも前年と同じ水準で、値段に大きな変動はない。原油高・電気料金値上げの影響が、経営に影響を与えている。
- ◇電化機器…当月の生産高は、前年同月比で10.6%増となる898百万円、前月比では△9.1%。家電、自動車部門共に前年比プラスとなるも、前月比では共にマイナス。親工場の海外現地調達が加速しており第4四半期以降の受注見込には不安がある。雇用人数も全体では若干増加しているが事業所間ではバラツキが見られる。
- ◇自動車部品…巷間いわれている通り、生産拠点の海外移転、更にはそれら企業との価格競争もあり厳しさが加わっている。
- ◇工業団地(農機部品)…組合員7社中3社が売上増、4社が若干の売上減となり、全体では前年同月比118%。得意先の増産基調の下、新規設備の導入・生産ラインの再構築・欠員補充等の動きが活発化している。来春の消費税増税による反動減はあるとしながらも、品質・納期・コスト・リードタイム短縮等にて更なる付加機能を加える事による受注拡大を狙っての動きとなっている。

## 非製造業

- ◇セメント卸…袋セメントの出荷袋数は前年同月比13%の減少。公共工事の入札不調になるケースも発生。建設工事が少なく、前年を下回った。
- ◇水産卸…精算所取扱高は前年同月比7.83%の増。円安により輸入水産物の価格上昇、国内では異常気象、燃料価格の高騰によりコスト増となって販売価格が上昇している。
- ◇食品卸売…先月に続き、野菜全体で平年に比べ出荷量減、単価高に推移している。特に葉物野菜が高値となっており、販売に苦慮している状況。
- ◇県北地区共同店舗…県北各區で毎週末イベントが行われ、イベントで浪費した分、普段の買い物で節約され倍返しとなった。売上・客数とも大幅ダウン。
- ◇県央地区共同店舗…全体的に売上より客数の落ち込みが大きい状況にある。新店舗がオープンしたので、年末年始の集客に期待したい。
- ◇県南地区共同店舗…売上高の減少が続いており、特にアミューズメント関連と宝飾時計部門が低迷

した。近郊大型店の影響が大きい業種部門の低迷が回復していない。

- ◇家電…夏場のエアコン需要が終了した後、減少の続いた家電品の売上が11月に入り上向いてきた。急激な寒さの訪れで暖房用エアコンが伸びはじめ、また、消費税増加の前倒し購入にもつながっている模様。他の家電品も合わせ、比較的順調な推移となり、前月比では30%程度、対前年同月比では40%前後増加している店もある。
- ◇中古自動車…11月も出品台数9.4%増、成約率も対前年3.0%増と順調に推移しており、オークション手数料も430万円の増加となった。しかし、小売店は依然として厳しい状況である。
- ◇石油…原油価格が高値で推移しているため、ガソリンの販売価格は、前年同月比で12円上昇している。依然として安値販売競争が続いているため、収益の改善は見られず、厳しい経営環境となっている。このため廃業・休業等に追い込まれる組合員が増えている。
- ◇ホテル旅館…全体的に紅葉等の観光客の出足は良かったようだが、県北海側は福島汚染水漏えいの影響がかなり強く出ている。漏えいの報道のたびに予約キャンセルが続出し、営業努力だけでは立ち行かなくなっているとの悲鳴も聞かれる。県南県西では、風評は感じられなくなってきたが、相変わらずの不景気で景気回復は感じられない。
- ◇自動車整備…組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数(持込検査)の対前年同月比は、普通車93.8%、軽自動車97.7%と減少となった。
- ◇総合建設…土木工事は災害復旧工事が一段落して各社受注量が減少。新規工事が発注になったが、余剰の人員と機材をかかえ売上減に悩む会社のダンプ受注が常態化。建設工事においては人材不足(資格者・職人)、加工工場不足(鉄骨・鉄筋・その他全般)のため予定工期内完成が不可能なため受注したくてもできない状況。特に大手ゼネコンがそれらの人材、工場を押さえているため、地

万建設業者は受注困難な状況である。

- ◇管工事(県南)…組合員工事店では「ミニバブル」というほど好景気。
- ◇交通安全施設…建設資材、燃料類の価格が上昇。
- ◇電気工事…一般用電気工作物調査業務が、毎月昨年の売上高より約30~40%減少しかなり厳しい状況。各支部の調査員の雇用体制にも大きな影響が生じてしまう。主な原因として東京電力そのものが従業員を業務に充てているため、何も言えない状況である。
- ◇県北地区運輸…主要顧客の出荷物量は依然低調で売上減少。燃料価格は横這いなるも経営は依然厳しい。
- ◇県央地区運輸…秋冬物の切り替えのため、衣料品・電化製品・雑貨などの動きが前月から引き続き盛ん。ホームセンターや年末にかけての売出しで、季節物の動きも良くトラック不足の声も聞くが、経営は厳しいままである。軽油も高止まりのまま。

H25.11月の業界天気図

業種	指数	売上		取益状況	
		前年同月比		前年同月比	
食料品業		▲	33.3		▲ 33.3
その他業			5.0		▲ 15.0
卸売業			0.0		▲ 50.0
小売業(商店街を含む)		▲	9.1		▲ 9.1
サービス業			0.0		0.0
建設業		▲	50.0		▲ 75.0
運輸業		▲	50.0		▲ 50.0
全体		▲	10.2		▲ 24.5

【天気図の見方】県内情報連絡員から毎月いただいている情報連絡票の景況項目について、「増加」(又は、「好転」)業種割合から「減少」(又は「悪化」)業種割合を差し引いた値(D.I値)をもとに作成しています。その基準は、下図のとおりです。

30以上	10~30未満	10未満~▲10	▲10超~▲30未満	▲30以上

※表の中の数値は D.I 値



## アクモス 株式会社

<http://www.acmos.co.jp>

— 人と技術と感動を —

プロフェッショナルサービスプロバイダーのアクモスグループです

<茨城本部> 〒319-1112 茨城県那珂郡東海村村松2713-7

TEL:029-270-5555 FAX:029-270-5531

	<p>本社 東京都千代田区神田小川町三丁目26-8 03-5217-3121</p>	<p>つくばオフィス 茨城県土浦市卸町1-1-1 関鉄つくばビル2F 029-834-3391</p>
---	--	---